

CISJ 岩野先生 ハンズオンセミナー

日時: 令和5年3月12日(日)
場所: 松風バイオフィックス株式会社
講師: 岩野 義弘先生



藤田 陽一 (神奈川県)



まだまだ寒さが残る3月中旬、インプラント臨床研究会副専務理事で今やペリオ・インプラント分野で、超人気セミナー講師となった岩野 義弘先生のハンズオンセミナーに参加してきました。主催は松風バイオフィックス株式会社、会場は本郷にあるエスクラップアカデミーです。

このセミナー正式名称は、「第2回歯周組織再生療法ハンズオンセミナー」第2回ということは、第1回があったわけで、実は自分は第1回にも申し込みをしました。告知された直後にもかかわらず大人気であったという間に満席。キャンセル待ちを頼んだのですが長蛇の列になってしまい、セミナー難民が大量に発生してしまったそうです。そこでこの難民救済のため、再度多忙な岩野先生にお願いしての第2回をこの3月に開催にこぎつけたということの次第だそうです。

最初にこのセミナー参加を決心してから1年半弱、待ちに待ったセミナー参加なのです。

この第2回のハンズオンセミナーでも、参加できなかった CISJ 会員の方多数いらしゃるとのこと、申し訳なく思います。

当日午前中は講義主体、その内容は基本的な所から組織再生の3要素(細胞・足場・シグナル因子)あるいは歯周組織再生のメカニズムとその歴史的な変遷へと移ります。

昼食が終わった午後はいよいよ豚顎骨を使用したハンズオンです。

その内容は

Non-containing defect に対する歯周組織再生療法
Modified Papilla Preservation Technique (MPPT)
Simplified Papilla Preservation Flap (SPPF)
(エムドゲイン + Bio-Oss + Bio-Guide)

Containing defect に対する歯周組織再生療法
Modified Minimally Invasive Surgical Technique
(M-MIST)

Pseud Papilla Preservation Technique (PPPT)
Partially containing defect に対する歯周組織再生療法

Entire Papilla Preservation (EPP) Technique
これらうち Modified Papilla Preservation Technique (MPPT) が基本中の基本で、これを繰り返し練習しマスターした上で次のステップに進むという次第でした。

岩野先生のデモを見ながら豚顎骨を切ったり縫ったりしていくわけですが、そのオペの正確さはまさに神業。感心するばかりです。

またエムドゲイン、リグロスという優良なシグナル因子の出現により歯周外科全般の外科的侵襲は、近年低下の傾向にあるとのことでした。新しい外科手技とその理論の習熟で自分としては、たいへん充実した中身の濃い一日を過ごすことができました。

本日これらの内容も含めたベーシックなことから、よりアドバンスに近い内容まで歯周外科一般のことを岩野 義弘先生が書いた「切らないペリオ、切るペリオ 歯周病を成功に導くエビデンスと臨床手技」が月刊ザ・クインテッセンスで長期連載中です。こちらもぜひともお見逃さないようお願いします。